

Die Eiche

ディ アイヘ

<http://www.jdg-chiba.com>

Japanisch-Deutsche
Gesellschaft der Präfektur
Chiba

〒270-2214 松戸市松飛台556-12
Tel./Fax: 047-385-1456

Mail: info@jdg-chiba.com



協会Home Page

2024の活動に向けて

千葉県日独協会会長 金谷 誠一郎

昨年（2023年）5月に、コロナウィルスのほかも、感染症法上の位置付けが5類に移行したことで、千葉県日独協会の行事も、徐々にコロナ禍以前の対面式での開催ができる状態となってまいりました。

そうしたなかで、昨年5月14日には、4年ぶりに対面での総会を実施することが出来ました。恒例の講演会も土屋有里常任理事から「ドイツ語の詩と音楽 〜ドイツ歌曲の楽しみ〜」というたいへん興味深いお話を、ソプラノ歌手である土屋美穂さんのゲスト演奏とともに拝聴させていただきました。

続いて9月23日には、待望の「ビール祭り」を船橋の「バイエルンシュトゥーベ by ダンケ」において24名の参加者を得て、和気藹々と実施することが出来ました。

さらに11月5日には、当協会の最大の行事である「ドイツ軍人慰霊祭」を100名以上の皆様のご参加をいただき滞りなく実施できました。コロナ禍のなかでも慰霊祭だけは、規模を縮小した形で実施してまいりましたが、昨年は、とりわけ、クレメンス・フォン・ゲッツェ駐日大使、新任のラルフ・ベルズツッケ大佐、ドイツ戦力基盤軍総監をはじめとする多数のドイツ側参加者のご臨席を得ることができました。また、山岡健先生のご指導のもと、津田沼高校オーケストラ部の皆さんにもたいへんお世話になりました。今回は京華中学・高等学校歴史研究部の皆様が、当協会のこうした地道な活動に教育的意義を見出され、ご出席くださったことも喜ばしいことでした。この場を借りまして、会員各位をはじめ、すべての皆様より賜りましたご尽力に厚く御礼申し上げます。

クリスマス・忘年会は、残念ながら実施は見送られましたが、本年2月3日には、当協会理事でもある草本晶・麗澤大学教授による新春講演会「ドイツ語学習の動向とコツ」を多数の方々のご参加を得て盛況のうちに実施することが出来ました。

このほか、紙幅の関係上、くわしく紹介できないのが残念ですが、青壮年部の皆様を中心としたさまざまな企画の発案とそれにもとづく諸活動に敬意を払っています。

会員のどなたも楽しく、積極的に会の活動に参加できるよう、会員各位のご指導、ご鞭撻をいただきまして、本年も会の運営にあたって参所存です。何卒よろしくご支援賜りますようお願い申し上げます。

木戸副会長-新年度の抱負

新しい年の抱負ということで、誌面をいただきましたので、まずはわれわれ千葉県日独協会の原点について振り返ってみたいと思います。

第一次世界大戦中、中国で捕虜となったドイツ人兵士を収容した俘虜収容所が習志野にありました。習志野霊園には、当時蔓延したスペイン風邪がもとで収容中に命を失ったドイツ人兵士を弔う慰霊碑があります。当協会は、毎年11月のドイツ「国民哀悼の日」にドイツ大使館と一体となって、彼らの慰霊祭を開催することを目的のひとつとして1996年に、その趣旨に賛同した会員により設立されました。

それから28年、当協会は徐々に会員を増やし、その間慰霊祭だけ



でなく、ドイツ語講習会、ドイツ研修旅行や懇親バス旅行、ビール祭り、クリスマス会、新年会などを定例の行事として、和やかな楽しい活動を行ってまいりました。同時に、デュッセルドルフ、千葉県等の文化交流行事にも積極的に参加することに努めてきました。

並行して、会員有志による研究的活動も意欲的に進めてきました。俘虜となったドイツ兵の残した日記の翻訳作業もそのひとつです（ボトルシップ研究会など）。当協会のホームページには、その成果が公表されています。当時の記録などを読みますと、捕虜に対しても給与が支払われており、収容所内でビールも購入できたそうです。また市民との交流もあり、その道のマイスターである俘虜から製法の伝授を受け、日本のソーセージ作りの草分けになった人もいます。こうした研究成果は、内外の関係者からも注目を集めています。会員の皆さんが長年にわたり築いてきた当協会の実績は、高校の教科書にも紹介されるに至っております。

当協会の会員には、さまざまなバックグラウンドをもった多士済々の方々がそろっております。一方では、気心の知れた会員同士の楽しい歓談の場として、同時にお一人おひとりの会員の皆様がもってられる貴重な、得難い、多様な知見が会の活動に反映されるような体制づくりに努めてまいりたいと思っています。

当協会の原点である慰霊祭は、本年をもって第30回目を迎えます。コロナ禍で中断を余儀なくされてきた対面行事も段々復活し始めております。会員を分け隔てすることなく、無理はすることなく、地道ではありますが、皆様が会員になってよかったと思っただけの「すべての会員が輝く千葉県日独協会」となることを願っています。

本年も引き続き何卒よろしくお願い申し上げます。

植松事務局長-新年度の抱負

「温故知新」 常に前進、されど先輩諸氏への感謝と尊敬は忘れずに！

2019年8月に入会し、2022年4月から事務局長を務めて参りました。振り返れば、無我夢中で遮二無二「猛進あるのみ」のあつという間の2年間でした。その間私なりに終始一貫して一誠に僭越ではありますが「会員相互の親睦」を深め、「会員とその家族全員の幸福」の追求、「協会のより一層の発展とその存在感」の向上のためには何をどうすべきかを常に念頭に置いて行動して参りました。

お陰様でこの2年間は、退会者9名に対し16名の新入会員（個人15名、法人1社）を迎え、辛うじて会員数の減少傾向に歯止めをかけることが出来ました（7名増）。

2024年1月現在、個人会員（名誉会員含む）は113名、法人会員は5社となり、トータル118名となりました。

特筆すべきは16名の新入会員のうち3名は、ドイツ語専攻の現役学生（草本理事推薦）であること、また、「ドイツ軍人慰霊祭」はじめ協会行事への参加をきっかけに、或いは当協会が出展した「いちかわドイツデー」や「習志野ドイツフェア」等の会場で勧誘が奏功したものです。

しかし、現在いまだ個人会員の半分は75歳以上でして、若返り（世代交代）は引き続き重要な命題です。新年度は、これまで以上に若手会員がのびのびと存分に活躍できる場を提供するとともに、歴史と伝統を築かれた諸先輩方にも気兼ねなくご参加いただき、若手会員への助言や和やかにお互いの経験談を語り合える交流の場を増やします。

真の「世代交代」とは物理的な若返り或いは単なる人の置き換えだけでは不十分だと思います。

それは、百十余名の全員の和衷協同の下にこそ成し得ることができるものと確信しています。

引続き会員の皆様のご理解とご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。



青壮年部ドイツ歴史研究 衣笠先生講演報告

- 常任理事/青壮年部長 勝見 浩明 -

欧州には、飛び地が存在しています。スイス領土にあるドイツ領など。しかも用語的にもEnklave（自国領にある他国の飛び地）、Exklave（他国領にある自国の飛び地）という概念を明確に示す言葉も存在します。決して広大な面積ではない筈の欧州においてその成立過程と住民の意識は、興味深いです。飛び地より規模は大きくなりますが、欧州における多くの国の中で住民意識と国家帰属の関係性は、どのように形成されてきたのか。特に旧ドイツ領における歴史、文化、言語、宗教などの要因で形成される住民意識は、どのようになっているのか。この点についてここ数年、千葉県日独協会、青壮年部、ドイツ歴史研究会では、会員でおられる神戸大学大学院国際文化研究科の衣笠先生にご講演をお願いしてきました。

2021年度は、衣笠先生の著作『旧ドイツ領全史』をベースに特にシュレージエンにフォーカスを当てドイツへの帰属か、ポーランドへの帰属かについて住民の意向が、住民の使用言語、宗教的背景によって傾向が分かれる点が明らかになる点を明確に示してくださいました（詳細/Die Eiche No.134参照）。また、昨年は、旧ドイツ領の中でもエルザス＝ロートリンゲンにフォーカス。この地域の住民意識が歴史的にみてどのように位置づけられているのか。国家の境界地域“BORDERLAND”における住民意識をテーマアップいたしました。（詳細/Die Eiche No.141参照）この地は、19世紀後半の普仏戦争後にドイツ帝国領、第一次世界大戦後にフランス領、第二次大戦下では、ドイツ領と国家帰属はめまぐるしく変化しますが、住民意識としては、ドイツでもフランスでもない、アルザスとしての住民意識が強いということは印象的でした。

そして衣笠先生のご講演、3年目にあたる昨年末、12月17日の講演では、会員内外、他地区の日独協会の皆様にも多く参加くださり、70名近い参加で実施しました。テーマは、昨半夏、衣笠先生が研究の為、渡欧され、そのときの最新の現地視察の様子を旧ドイツ領のベルギー、ドイツ/デンマークの国境のシュレスヴィヒ、旧ドイツ領ダンツィヒの3領域について歴史、言語、住民についてご説明くださいました。

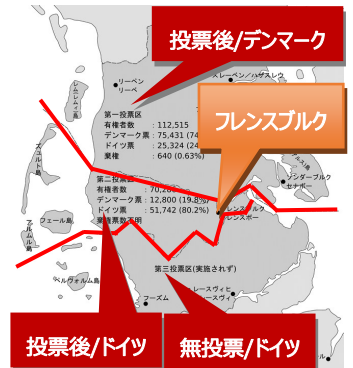
ベルギーでは、ベルギー東部に位置するドイツ語地域があり、EU オイペンについて解説されました。とても興味深かったのは、第一次世界大戦後、パリ講和会議においてベルギー代表团もこのオイペンについて存在を忘れていたという点でした。1818ウィーン会議後、プロイセン領に帰属、ドイツ語化政策により、ドイツ語使用者が増えていきます。ヴェルサイユ条約で住民投票に基づき、住民投票によって国家帰属を決めることになり、結果的にベルギーに帰属が決められました。国家帰属的には、ベルギーになったものの、1933年にベルギーが連邦制移行の折、ドイツ語話者住民が、「ドイツ語共同体」としての自治権を要求。独自の議会と政府を設置を行っています。この事例の場合、ドイツ語をベースに住民の帰属意識が形成されているのだという点が興味深かったで

す。一方、この「ドイツ語共同体」の正式な組織名称が“Ostbelgien”（東ベルギー）と称している点、“Deutschsprachige Gemeinschaft”と称していない、すなわち、「ドイツ語共同体」、「ドイツ語」という表現を使っていない点が国家帰属的には、ベルギーである点を明確に示しているのは興味深かったです。



ドイツ語共同体を示す標識

シュレスヴィヒ＝ホルシュタイン問題については、まさに国家視点から見た領土問題の顕在化という視点で19世紀後半、デンマークとドイツ連邦の両方の国に属していたホルシュタインが問題となる、すなわち、国家の領土の明確化が行われ、結果的にはドイツ連邦が勝利、多くの部分がドイツ帝国領となります。ドイツ語化の動きは加速されますが、第一次大戦後、住民投票で帰属を確定。現在に至っているのは、興味深いです。



引き続き、Gdansk/Danzigの最新状況の紹介も行われました。歴史的な観点にも触れられ、第一次大戦後、ヴェルサイユ条約でこの地は、独立した自由市、事実上の独立国家という位置づけはとて興味深かったです。参加者からは、活発な質疑がなされ、ドイツ騎士団とKönigsbergの関係、ポーランドにおけるザクセン王の統治、近現代史における貴族支配における優位性（国家意識より）の解説、ポーランドとウクライナにおける領土問題についての質問などなされました。その後、参加者から多くの本講演について肯定的な意見を頂きました。2024年も欧州における住民意識について引き続きテーマアップします。

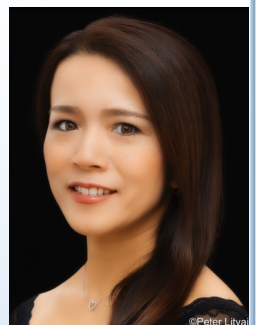


ドイツ/デンマーク間の
国境標識

●掲載画像は、衣笠先生の講演資料からの引用、一部、加筆しています。

Richard Strauss “ばらの騎士”紹介

私は今、3月3日のびわ湖オペラ「ばらの騎士」の公演のために日本帰国中です。立ち稽古が進んでいくにつれて、このオペラの魅力が自分の中に刻み込まれてきました。リヒャルト・シュトラウス作曲のこのオペラの大きなテーマは「時間の流れ」です。美しく気高い元帥夫人は若き伯爵オクタヴィアンと言う愛人がいますが、一刻一刻と時間が流れる中、老いていく自分に愛人との時間があまり残されていない事を予感しています。新興貴族ファルニナルの娘ゾフィー（今回の公演で私が歌う役です）は、田舎貴族のオックス男爵と結婚する事が決まっていますが、男爵の無礼な振る舞いに失望すると同時に、結納品である銀のばらを届けに来たオクタヴィアンと一目で恋に落ちます。ゾフィーは修道院を出たばかりの若い娘で、その若い娘を前に元帥夫人は修道院を出てすぐに親の命令で結婚した自身の過去を振り返ります。取り乱すことなくオクタヴィアンとの恋から身を引く元帥夫人、元帥夫人を慕い愛するが同時に若い娘ゾフィーに一目惚れしてしまったオクタヴィアン、そして一日のうちに婚約者への失望を体験し、ばらの騎士オクタヴィアンに抑えられない感情を抱いたゾフィー、この3人によって歌われる終幕の三重唱は複雑な心境を描いた壮大な音楽で聴衆にも舞台上の歌手にも感動を与えてくれます。



筆者: 古川日奈子様



びわ湖公演のチラシ

Glühweinパーティ参加報告

-山本 久瑠実 会員-

1月18日木曜日、ベルズイッケ空軍大佐のご自宅に、"Glühweinabend"として13名の千葉県日独協会会員のご招待をいただきました。皆様に共有させて頂きます。最初に、大佐ご自宅の裏庭にて、大佐手ずから数時間かけお作りになったGlühweinを頂きました。お味太鼓判付き！との前口上に違わず、一口含むとMandarineとシナモンの香りが口一杯に広がり、フルーティな芳醇さに陶酔いたしました。また、温かなWeinを傾ける傍ら、奥様特製のKekseやDresdner Stollen、Lebkuchenにてご歓待いただき、一同ドイツの味を堪能いたしました。こうしたお二人のお心遣いにより、真冬の夜空の下にいることを忘れるほど、その場があつという間に暖かい空気に包まれました。その後、屋内の居室に招いていただき、ピュッフェ形式で和やかな歓談の時間が流れていきました。お部屋の華やかさに、一歩足を踏み入れた瞬間ドイツを想い出した方も多かったと思われます。そうした夢のような空間で、ワインやドイツビールを始め、カクテルやスパークリング、Rotkäppchen Sektが惜しみなく振舞われ、Bretzel、Plätzchen談義から派生してドイツ式キッチン案内ツアーや、MozartkugelnやMozart Chocolate Liqueurの卓上への登場などをつじ、まるでかの地に旅行に来たかのような楽しいひとときを過ごさせていただきました。ご夫妻のお話からは、ご家族やご出身オーバーフランケンへの愛が終始溢れんばかりに伝わってきましたが、「日本に赴任できて嬉しい」という幸せなお言葉もお聞きすることができました。最後に、「ein Prosit ein Prosit der Gemühtlichkeit」を唱和する大佐はじめ男性陣が、アルコール度数38度のPapa Rheinを豪快に乾かし、まさに宴もたけなわの中Abendはお開きに。ほろ酔いの会員一同を最後まで笑顔で見送っていただきました大佐ご夫妻に、改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。



ドイツ人家族との出会い



ドイツと私 - 小原 陽子

困ったなあ。このお話を引き受けたものの、ネタが思いつかない！ドイツ語や文化を専攻していたわけでもないし、ましてや留学や仕事で駐在していたなどというかついい経歴もなく、ビールやワインも飲めないし…考えれば考えるほど、堂々巡りに陥ってしまいますが、それでも私なりのドイツと私を書きたいと思います。

私にとってドイツといえば大学の第二外国語は欠かせません。優柔不断の私が、数か国語から即決したこの選択は大正解でした！最初に教えてくれた教授がよかったこともあってか、専攻の講義より楽しく、その後も単位にならないのに他部やドイツ語専攻科の講義に紛れ込んだりしました。そんな中、友人と街中を歩いていると、外国人家族に声を掛けられました。昼食場所を探しているというので、時間にゆとりがあった私たちは店まで案内しました。その道中で、ドイツから来日していたことがわかり、授業で習った簡単なドイツ語を話してみたもののすぐに到着し、お店をあとにしました。しかし、数時間後、偶然にもまたその家族にばったり会い、彼らは昼食時のことを話し、最後に私に名刺を渡して、今度こそ本当に別れました。



ドイツ人家族と筆者

それから数年して、私は引っ越しをすることになり、荷物を整理しているとあの時の名刺が出てきました。何を思ったのか、手紙を書いてみようかと久々にドイツ語を駆使し、投函しました。そのときすでに数年が経過していること、それもたった数分の道案内のことだったので、返信は期待していなかったのですが、ある日ポストにドイツから手紙が届いたのです。



私のもう一つの家族♪

それから今日に至るまで親交が続いています。家族の誰かが代わる代わる来日するたびに会食をしては近況報告をしたり、誕生日やクリスマスにはプレゼントを贈り合ったり、折に触れては連絡を取り合っています。



プレゼントのMarzipan

残念なのは彼らに比べて私がドイツに行っていないこと。特に2年前には結婚式に招待されたのに、コロナ禍で行けなかったことはショックでした。いつも私のことを気にかけ、ずっとつながっていてくれる彼らに感謝しています。今年は世界情勢（と懷具合）を見ながら、ドイツで彼らに会えたらいいなと思っています。

オンラインドイツ語講習会 終了報告

- 常任理事 本間 実里 -

協会恒例のドイツ語講習会は、昨年10月から12月にかけて7回、今回もオンライン形式で開催されました。講師は早稲田大学名誉教授岡村三郎先生（当協会理事）、テキストはReiner Kunze著 „Der Drachen Jakob“、2018年度ドイツ語講習会で使用したテキストです。Reiner Kunzeは1933年生まれ、旧東ドイツ出身で、西ドイツ児童文学賞受賞の他、様々な文学賞を受賞している大変著名な作家です。ちなみに、2021年度 „Eine Stadt-bekannte Geschichte“、2022 年度 „Der Löwe Leopold“ に続き、同著者の三作品を読んだことになります。

岡村先生の講習会に以前から参加されている方も含めて会員・非会員併せて4名の方がご参加くださいました。また、今回は初めて、現役の大学生の方が聴講形式で参加されました。授業では、岡村先生から、文脈の意味の捉え方違い、文法・語彙表現について大変丁寧に説明いただきました。

受講後、参加された皆様からご感想をいただきました：

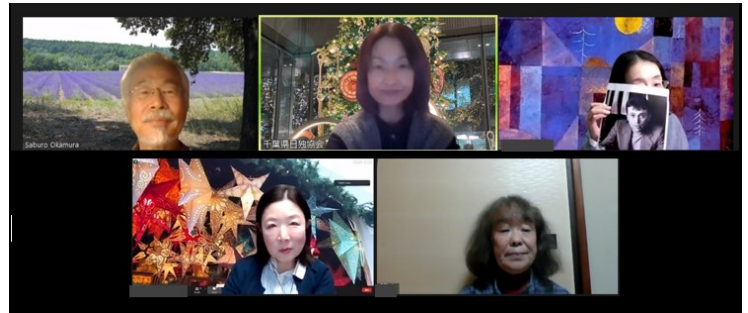
「今回もとても充実した授業で、本当にありがたかったです。文法構造、語の意味とニュアンス、定型表現の意味と使い方など、細かい点を解説していただけるのは、得がたい機会です。普段ドイツ語を読むときにも、以前よりは文法に気をつけるようになった気がします。そのおかげでいくらか誤読が減ったかな、と自分では思っているのですが、岡村先生には本当に感謝しています。無理はお願いできませんが、今後ともご指導いただけたなら、嬉しい限りです。どうか先生にくれぐれもよろしくお伝えください。」

「授業のたびに、勘違いと勉強不足を思い知ることばかりでしたが、心温まる楽しいお話を読了できて、岡村先生と皆さまに感謝申し上げます。有難うございました。」

「最後まで聴講として参加させて頂けたことを嬉しく思います。これからもドイツ語力を磨き上げていきたいと思いますので宜しくお願い致します。」

最終回の授業で、「これからどうぞドイツ語を続けてください」と岡村先生からお言葉を頂戴したことが心に残っています。また、「とにかく読み終われたのが良かったですね…皆さんがよく勉強してくださったからです。皆さんに心から感謝したいと思います。」と暖か

いメッセージも頂戴しました。岡村先生には懇切丁寧に教えていただき、とても楽しい時間を過ごすことが出来たこと、改めて御礼申し上げます。



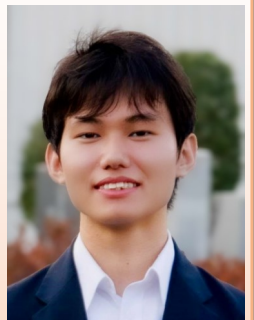
新入会員紹介

初めまして、國分天翔（こくぶつばさ）と申します。

私は麗澤大学でドイツ語を学んでおり、本協会理事兼麗澤大学教授である草本先生からご紹介頂き、そのご縁で入会させていただきました。

私はドイツ（ドイツ語）とは無縁の人間でしたが、高校3年生の時、受験勉強の間に読んだドイツの数学者に関するWikipediaの記事を読んで感銘を受けたことを今でも鮮明に覚えています。それ以降、受験勉強そっちのけでドイツ語を独学し、大学では数学を学ぼうとしていたにも関わらず、今に至ります。

本協会のイベントは、私にとって、他では経験できないとても貴重なものなので、積極的に参加したいと思っています。本協会を通じて、より一層ドイツおよびドイツ語に関する知識を深めたいです。これからどうぞよろしくお願い致します。



今後の予定

- 理事会（4月-書面審議）
- 総会 日時： 2024年5月18日 15:00-
場所： 船橋中央公民館
●詳細は、別途、ご案内致します。

会員情報

個人会員 馬場 邦夫さん 市川市
法人会員 医療法人 同和会 千葉病院、社会福祉法人清和会、(株)京葉ビル管理、(株)和幸電気工事、
バイエルンストゥーベ by ダンク

編集後記

新たに会員になってくださった方々が多いというのは喜ばしいことです。法人会員もあらたに参加くださいました。すべての会員が魅力を感じる協会であるよう、頑張りたいと思います。吉川常任理事のお嬢様が、3月3日、びわ湖でオペラご出演と知り、作品紹介の執筆をお願いがありました。ドイツオペラは、ドイツ文化を担う一つの領域であり、この作品の随所で聴けるメロディは甘美でとても綺麗です。同時に音楽芸術としても文化的価値は高いですが、この作品で表現されている貴族社会の当時のドイツ、欧州の世界観も理解できます。吉川様、ご多用中のところ原稿執筆ありがとうございました。勝見